

# 2006年度(2007年)人文地理学会大会

## 協議員会・総会 資料

2007年11月17日 関西学院大学

- I 庶務委員会
  - ・会務報告
  - ・2007年度(2008年)学会役員(案)
  - ・会誌のJ-stage登録と著作権規定
  
- II 会計委員会
  - ・会務報告
  - ・2006年度決算(案)
  - ・2007年度予算(案)
  
- III 編集委員会
  - ・会務報告
  
- IV 集会委員会
  - ・会務報告
  
- V 企画委員会
  - ・会務報告
  
- VI 第7回人文地理学会賞候補者
  
- VII 地理学文献目録第12集編集委員会
  
- VIII 学術会議関係
  - ・人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会
  - ・学校教育における地域教育(学術会議報告書)
  - ・IGU地域会議の招致

2007年度(2008年)人文地理学会役員(案)

任期:2007年11月~2008年10月

(1) 会長 金田章裕

(2) 評議員(19名)

生田真人 石川義孝 伊東 理 内田忠賢 大城直樹 金坂清則 古賀慎二  
高橋誠一 富田和暁 野間晴雄 長谷川孝治 藤井 正 藤田裕嗣 水内俊雄  
山崎孝史 山田 誠 山野正彦 吉越昭久 吉田容子

(3) 協議員(50名)

北海道・東北:岩鼻通明 氷見山幸夫

関東:青山宏夫 石井英也 小田宏信 小田匡保 小野寺淳(茨城大) 熊谷圭知  
杉浦芳夫 田邊 裕 田林 明 千葉立也 戸所 隆 松原 宏  
水岡不二雄 水野 勲 山田晴通 若林芳樹

中部:有菌正一郎 岡本耕平 神谷浩夫 中島弘二 林 上

近畿:秋山元秀 碓井照子 香川貴志 川端基夫 小林 茂 米家泰作 島田周平  
島津俊之 千田 稔 田中和子 田和正孝 堤 研二 戸祭由美夫  
長尾謙吉 藤巻正己 松本博之 三木理史 水田義一 矢野桂司

中国・四国:内田和子 岡橋秀典 金 科哲 友澤和夫 由井義通

九州:遠城明雄 野澤秀樹 平岡昭利

(4) 監査(2名)

千田 稔 野澤秀樹

(5) 委員会理事・委員

庶務[理事] 内田忠賢 [留任] 米家泰作 吉田道代 [新任] 村中亮夫

会計[理事] 富田和暁 [留任] 松岡恵悟 [新任] 福本 拓

編集[理事] 水内俊雄 [留任] 池谷和信 大城直樹 香川雄一 小島泰雄  
辰己 勝 田和正孝 長尾謙吉 中川聡史  
松本博之

[新任] 荒山正彦 湯山健一 吉田容子 古賀慎二

中谷友樹 上杉和央 水野真彦

集会[理事] 生田真人 [留任] 土平 博 野尻 亘 渡邊秀一

[新任] 河本大地

企画[理事] 長谷川孝治 [留任] 加藤政洋 根田克彦 濱田琢司

[新任] 中沢健史

# I 庶務委員会

## 2006年度（2007年）会務報告

### （1）会員数（2007年9月30日現在）

#### ①2006年度会員数の動向

入会 47名（昨年度も47名、一昨年度は54名）

退会 37名（昨年度は55名、一昨年度は82名）

うち、ご逝去6名（昨年度は2名、一昨年度は7名）

除籍 0名（昨年度は55名）

#### ②現在の会員数 1538名（昨年度は1528名、一昨年度は1587名）

国内1490名、海外48名

### （2）交換受贈雑誌等の動向（2007年11月現在）

①国内交換雑誌 51誌（昨年より2誌減）

②国外交換雑誌 23誌（昨年と同じ）

③受贈単行本 43冊（昨年より2冊増）

④受贈雑誌・別刷 91誌（昨年より69誌減）・26部（昨年より10部減）

### （3）2006年度理事会・評議員会の開催→理事会4回、評議員会4回

### （4）『人文地理』バックナンバーのJ-stage登録と著作権規定

## Ⅱ 会計委員会

### (1) 会費納入状況

2006年度	14,998,000円
2005年度	15,984,750円
2004年度	16,081,675円
2003年度	16,498,500円
2002年度	16,937,500円
2001年度	17,418,780円

### (2) 2006年度(2007年) 補助金関係

日本学術振興会「科学研究費補助金(研究成果公開促進費)」 190万円  
文部科学省の助成(セミナー)は採択されず。

人文地理学会 2006年度 決算(案)

【運営費会計】  
 <収入の部>

科目	06年度予算	06年度決算	充足率	差額
会費	¥16,500,000	¥14,998,000	90.9%	¥-1,502,000
出版物売上	¥1,000,000	¥1,133,100	113.3%	¥133,100
雑収入(受取利息を含む)	¥100,000	¥68,647	68.6%	¥-31,353
受取利息		¥9,880	—	¥9,880
未払い費用	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
研究成果公開促進費	¥2,000,000	¥2,000,770	100.0%	¥770
計	¥19,700,000	¥18,310,397	92.9%	¥-1,389,603

<支出の部>

科目	06年度予算	06年度決算	充足率	差額
雑誌生産費	¥7,500,000	¥5,422,567	72.3%	¥-2,077,433
(超過頁課金)		¥-50,000	—	¥-50,000
編集費	¥800,000	¥665,618	83.2%	¥-134,382
雑誌発送費	¥1,000,000	¥921,055	92.1%	¥-78,945
集会費	¥350,000	¥350,000	100.0%	¥0
大会開催費	¥900,000	¥656,405	72.9%	¥-243,595
研究部会運営費	¥240,000	¥240,000	100.0%	¥0
給料手当	¥4,500,000	¥4,506,461	100.1%	¥6,461
保険料	¥600,000	¥600,367	100.1%	¥367
役務費	¥80,000	¥28,000	35.0%	¥-52,000
旅費・交通費	¥300,000	¥285,410	95.1%	¥-14,590
通信費	¥300,000	¥258,671	86.2%	¥-41,329
啓発事業費	¥250,000	¥32,428	13.0%	¥-217,572
顕彰事業費	¥120,000	¥136,380	113.7%	¥16,380
広報事業費	¥50,000	¥50,000	100.0%	¥0
会合費	¥150,000	¥138,199	92.1%	¥-11,801
選挙費	¥0	¥0	—	¥0
選挙費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
諸印刷費	¥60,000	¥60,375	100.6%	¥375
名簿作成発送費	¥0	¥0	—	¥0
名簿作成発送費積立金	¥250,000	¥250,000	100.0%	¥0
文献目録作成補助費	¥250,000	¥250,000	100.0%	¥0
備品費	¥200,000	¥125,693	62.8%	¥-74,307
備品費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
消耗品費	¥120,000	¥147,799	123.2%	¥27,799
機械借上費	¥120,000	¥103,741	86.5%	¥-16,259
室料(家賃)	¥1,200,000	¥1,182,185	98.5%	¥-17,815
雑損	¥10,000	¥7,000	70.0%	¥-3,000
予備費	¥150,000	¥89,916	59.9%	¥-60,084
計	¥19,700,000	¥16,658,270	84.6%	¥-3,041,730

収支差額 ¥0 ¥1,652,127

\* 06年度資金会計の期首・期末差額に預り金を加算した額と収支差額とが一致している。

【資金会計】

科目	06年度期首	06年度期末	07年度期首
運営資金 <sup>1)</sup>			
振替貯金	¥8,956,365	¥4,987,026	¥4,987,026
普通預金 <sup>1)</sup>	¥1,058,655	¥1,063,180	¥1,063,180
普通預金 <sup>2)</sup>	¥0	¥3,556,147	¥3,556,147
通常貯金	¥3,814,426	¥6,211,790	¥6,211,790
現金	¥12,303	¥16,259	¥16,259
定期預金 <sup>3)</sup>	¥2,272,410	¥2,274,064	¥2,274,064
保証金	¥1,400,000	¥1,400,000	¥1,400,000
未払い費用(選・名・備)	¥-100,000	¥-450,000	¥-450,000
計	¥17,414,159	¥19,058,466	¥19,058,466
期首期末差額		¥1,644,307	¥1,644,307
所得税納付に伴う預り金 <sup>4)</sup>	¥-340	¥7,820	¥7,820

- 1) 運営資金の利息・利子は「収入の部」の受取利息に計上。
- 2) 振替預金の500万円をもって2006年4月3日に口座を新設した。
- 3) 06年度期末額には定期預金の1年分の利子1,654円を加算してある。
- 4) 振替貯金に含まれる。

2007年度予算(案)

【運営費会計】  
 <収入の部>

科目	07年度予算
会費	¥16,000,000
出版物売上	¥1,000,000
雑収入	¥100,000
受取利息	¥10,000
未払い費用	¥450,000
研究成果公開促進費	¥1,900,000
計	¥19,460,000

<支出の部>

科目	07年度予算
雑誌生産費 <sup>1)</sup>	¥6,650,000
(超過頁課金)	
編集費	¥800,000
雑誌発送費 <sup>1)</sup>	¥1,120,000
集会費	¥350,000
大会開催費	¥900,000
研究部会運営費	¥240,000
給料手当	¥4,500,000
保険料	¥600,000
役務費	¥50,000
旅費・交通費	¥300,000
通信費	¥300,000
啓発事業費	¥250,000
顕彰事業費	¥120,000
広報事業費	¥50,000
会合費	¥150,000
選挙費	¥200,000
選挙費積立金	¥0
諸印刷費	¥100,000
名簿作成発送費	¥500,000
名簿作成発送費積立金	¥0
文献目録作成補助金	¥250,000
備品費	¥200,000
備品費積立金	¥100,000
消耗品費	¥150,000
機械借上費	¥220,000
室料(家賃)	¥1,200,000
雑損	¥10,000
予備費	¥150,000
計	¥19,460,000

収支差額 ¥0

1) 59巻3号分を含め7号分の費用。

## 2006年度 編集委員会 会務報告

## 編集委員会の昨年度の試み

- 本文ポイント、行間の変更 印刷費の見直しも含めて 印刷業者の入札制を見据えて  
投稿ジャンル領域 日本語 0.5ポ下げ、1文字増 行間ツメ 5%減量
- 投稿ジャンル領域 英語 フォント変更、行間ツメ ポイントアップ 5%ほど増量 体裁は依然改善されず
- 彙報ジャンル領域 日本語 0.5ポ下げ、行間ツメ、などで10%減量
- 注の文末への掲載 印刷編集の簡便化を考えて導入。しかし参考文献方式と比べ、中途半端な措置にとどまっている。
- 投稿規程の細部の改訂 著作権若干整備
- 学界展望の採録文献をwebに掲載
- 新ジャンル 学会・非学会員を問わない投稿依頼形式の「フォーカス」の導入 特設レポートの発展的解消
- アジアの地理学の英語特集を引き続き企画。59巻6号に掲載予定

## 人文地理 雑誌編集状況

( )は昨年

	11月18日	1月13日	3月10日	5月12日	6月18日	7月14日	9月15日	合計	総計
論説 新規	2	7	1	8	0	1	1	20	35(49)
論説 再投稿	2	1	2	3	1	2	4	15	
展望 新規	0	1	0	0	0	0	1	2	4(2)
展望 再投稿	0	0	1	0	1	0	0	2	
研究ノート新規	3	4	1	2	0	2	3	15	36(46)
研究ノート再投稿	3	4	3	2	1	3	5	21	
合計	10	17	8	15	3	8	14	75	75(97)
					学界展望				
論説 採択	1	1	2	0	1	0	1	6	(11)
論説再投稿要請	1	3	1	4	0	3	3	15	(22)
論説 返却	2	4	0	7	0	0	1	14	(16)
展望 採択	0	0	1	0	1	0	0	2	(1)
展望 再投稿要請	0	1	0	0	0	0	1	2	(0)
展望 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
研究ノート採択	1	4	0	1	1	2	2	11	(11)
研究ノート再投稿要請	2	1	1	2	0	2	4	12	(27)
研究ノート返却	3	3	3	1	0	1	2	13	(8)
合計	10	17	8	15	3	8	14	75	(97)

\*編集委員会の審査の結果、投稿段階の種目と採択種目が変更されたケースがある。(論説→ノート:1件, 論説→展望:1件)

\*英文特集はカウントせず

## 若干のコメント

投稿者を母数にすると  
それぞれの率は上がる

論説採択率	17%	論説再投稿要請率	43%	論説返却率	40%
研究ノート採択率	31%	研究ノート再投稿要請率	33%	研究ノート返却率	36%
全体採択率	25%	全体再投稿要請率	39%	全体返却率	36%

## 人文地理各巻 発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーラム
58巻5号	100	1	2	3	0
58巻6号	114	5	0	0	0
59巻1号	110	1	1	3	4
59巻2号	94	2	1	1	0
59巻3号	88	0	1	1	0
59巻4号	88	1	0	3	0
合計	594	10	5	11	4

\*「論説」はすべて英文特集論文。Editorial Noteも含む

\*公開セミナー講演録

\*57巻3号の「展望」は「学界展望」および特設レポートを除いている。

\*展望には、「レビュー」も含まれている。

\*上記に述べたように59巻1号よりフォントを小さくしていることもあり、総ページは662頁から594頁と、10.3%減少している。

もちろん収録本数の減っていることも減量要因となっている。

# IV 集会委員会

## 2007 年会務報告

### I. 集会に関する1年間の実績

#### 1. 大会

2006年 近畿大学・本部(東大阪市) 11月11日(土)～13日(月)

特別発表(2会場)4件, 一般発表81件, うち口頭発表(5会場)77件, ポスター発表4件(1会場), 懇親会, エクスカーション(堺と大阪市南部)「政令指定都市堺の歴史とまちづくりの課題—チンチン電車で堺環濠都市と上町台地南端部をめぐる—」公共交通機関利用

2007年 関西学院大学上ヶ原キャンパス 11月17日(土)～19日(月)

特別発表(2会場)4件, 一般発表71件, うち口頭発表(5会場)64件, ポスター発表7件(1会場), 懇親会, エクスカーション(西宮市)「西宮市の震災復興と都市変貌」公共交通機関利用

#### 2. 例会

第259回 2006年12月2日(土) 大阪経済大学 発表3件, 参加者20名

第260回 2007年4月14日(土) 立命館アカデミア@大阪 発表3件, 参加者58名

第261回特別例会 2007年6月30日(土)・7月1日(日) 教賀市男女共同参画センター 発表4件, 参加者49名

#### 3. 研究部会(\*印は大会開催時の部会アワーを示す)

##### 1) 地理思想研究部会(代表世話人 大城直樹)

第87回 2006年11月11日 近畿大学本部キャンパス\*, 発表1件, 参加者39名

第88回 2007年3月24日(土) 関西学院大学大阪梅田キャンパス 発表2件, 参加者28名

第89回 2007年7月21日(土) 神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室 発表1件, 参加者22名

第90回 2007年9月29日(土) 京大会館 発表1件, 参加者数\_\_名

<開催予定>第91回 2007年11月17日(土) 関西学院大学上ヶ原キャンパス\*

##### 2) 歴史地理研究部会(代表世話人 藤田裕嗣)

第105回 2006年11月11日 近畿大学本部キャンパス\*, 発表1件, 参加者18名

第106回 2007年5月26日(土) 京都大学総合博物館 発表1件, 参加者10名

第107回 2007年7月21日(土) 奈良女子大学生活環境学部 発表1件, 参加者25名

第108回 2007年8月23日(木)・24日(金) 発表数5件, 参加者63名

<開催予定>第109回: 2007年11月17日(土) 関西学院大学上ヶ原キャンパス\*

##### 3) 都市圏研究部会(代表世話人 伊藤 悟)

第19回 2006年11月11日 近畿大学本部キャンパス\*, 発表1件, 参加者20名

第20回 2006年12月9日(土) 放送大学 鳥取学習センター, 発表4件, 参加者23名

第21回 2007年2月4日(日) キャンパスプラザ京都, 発表5件, 参加者15名

第22回 2007年5月19日(土) 大阪市立大学 文化交流センター, 発表3件, 参加者42名

第23回 2007年7月7日(土) 名古屋都市センター, 発表6件, 参加者62名

第24回 2007年11月3日(土) キャンパス・イノベーションセンター, 発表3件

<開催予定>第25回 2007年11月17日(土) 関西学院大学上ヶ原キャンパス\*

##### 4) 地理教育研究部会(代表世話人 岩本廣美)

第6回 2006年11月11日 近畿大学本部キャンパス\*, 発表1件, 参加者15名

第7回 2007年5月26日(土) 大津市内および滋賀大学大津サテライトプラザ, 発表3件, 参加者26名

第8回 2007年8月10日(金) 岸和田市内および浪切ホール4階交流ホール, 発表4件, 参加者76名

<開催予定>第9回 2007年11月17日(土) 関西学院大学上ヶ原キャンパス\*

## II. 今後の予定

第 262 回例会 2007年12月8日(土) 大阪市立大学文化交流センター 発表3件, 経済地理学会関西支部と共催

第 263 回例会 2008年4月12日(土) 歴史地理関係(近畿圏内で開催予定)

第 264 回特別例会 2008年6月14(土)15(日) テーマ: 北部九州の産業と文化(仮)

佐賀県唐津市で開催, 福岡地理学会と共催

2008年人文地理学会大会 11月8日(土)・9日(日)・10(月) 筑波大学(つくば市)で開催

## III. 特記事項と今後の課題

### 1. 大会一般研究発表

- 1) 大会研究発表者の動向 一般研究発表 2007年71件(口頭64, ポスター7),  
2006年81件(口頭77, ポスター4), 2005年90件(口頭81, ポスター9) 2年連続して発表数が減少している
- 2) 研究発表の社会への情報発信→J-Stageへの登録改善
- 3) スライドプロジェクター, OHPの使用の激減→PCプロジェクターへの全面移行
- 4) エクスカーション参加者の低迷(公共機関を利用する巡検の実施)

### 2. 例会の一層の活性化

テーマの設定, 参加者の増加, 共催の推進, 一般参加者へのアピール・広報

### 3. 4研究部会の継続申請と部会活動活性化のための内規の変更

任期 2007年11月～2009年10月

地理思想研究部会 代表世話人 島津俊之(和歌山大学)

歴史地理研究部会 代表世話人 川口 洋(帝塚山大学)

都市圏研究部会 代表世話人 香川貴志(京都教育大学)

地理教育研究部会 代表世話人 岩本廣美(奈良教育大学)

研究交流の柔軟化と活動拡大のために, 2000年に作成した部会内規の更新を図りたい



## <会務報告>

### V 企画委員会

#### (1) 第7回 公開セミナー

日 時 : 平成 19 年 10 月 20 日 ( 土 ) 13 時 ~17 時

会 場 : 神戸市勤労会館 2 階 多目的ホール

テ ー マ : 「文化的景観の意義と保全」

基調講演 金田章裕 (人文地理学会会長、京都大学) :

「日本における文化的景観の意義」

報 告 1 合田博子 (兵庫県立大学) :

「地域を繋ぐため池景観—ため池文化：スリランカ・韓国・日本—」

報 告 2 岸本一幸 (稲美町教育委員会文化課) :

「稲美町におけるため池群の保全活動」

報 告 3 五十嵐 勉 (佐賀大学) :

「棚田景観の保全・活用と文化的景観」

報 告 4 木原伸夫 (岩座神棚田保全推進協議会) :

「岩座神における棚田保全活動とオーナー制度」

全体討論 司会 : 秋山道雄 (滋賀県立大学)

#### (2) GIS Day in 関西 2007 (共催)

日 時 : 平成 19 年 8 月 3 日 (金) 10 時~17 時

会 場 : 奈良大学

内 容 : 午前に 5 講演、午後に体験実習 3 部門

#### (3) GIS 技術資格協会 (仮称) 設立準備会

第 2 回 GIS 技術資格協会 (仮称) 設立準備会 : 平成 19 年 4 月 19 日

第 3 回 GIS 技術資格協会 (仮称) 設立準備会 : 平成 19 年 8 月 20 日

会 場 : 国際航業 KK 本社

内 容 : 「GIS 専門技術資格」の認定

\* 10 月 13 日 (土) の第 4 回評議員会において、「GIS 技術資格協会」設立を承認

第7回人文地理学会学会賞候補者について

**A部門** 学術著作部門

候補者：今里悟之

対象著作：『農山漁村の〈空間分類〉—景観の秩序を読む—』、京都大学学術出版会、2006年、315頁。

**B部門** 一般著作部門

候補者：村山朝子

対象著作：『『ニルス』に学ぶ地理教育—環境社会スウェーデンの原点—』、ナカニシヤ出版、2005年、166頁。

**C部門** 『人文地理』掲載論文部門

候補者：澤宗則・南埜猛

対象論文：「グローバル化にともなうインド農村の変容 —バンガロール近郊農村の脱領域化と再領域化—」『人文地理』58-2、2006年。

人文地理学会学会賞（A部門）候補者選考委員会からの答申

2007年10月1日

人文地理学会会長

金田章裕 殿

第7回人文地理学会学会賞（A部門）候補者選考委員会

委員長	石井英也
委員	石原 潤
委員	野沢秀樹
委員	元木 靖

本委員会は、第7回人文地理学会学会賞（A部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：今里悟之

受賞候補書：『農山漁村の〈空間分類〉－景観の秩序を読む－』、京都大学学術出版会、2006年、315頁

選考理由：本書は、農山漁村の景観に隠された、住民自身によるさまざまな意味づけや秩序立てを「空間分類」の体系として捉え、その成り立ちや仕組みを理論的・実証的に明らかにしようとしたものである。その際、村落空間を何らかの意味を担う「記号の体系」、つまり「テキスト」として読むことが本書全体の基本的視座となっている。

本書は大きく第I編「理論編」と第II編「実証編」に分けられている。理論編は3つの章から構成されている。ここでは、テキスト論の立場から、村落空間や景観を理解するための論点や課題の整理に努め、英語圏の景観テキスト論を論じ、さらには著者が目指す構造主義と記号論の検討と批判を通して、その可能性を展望したうえで、本書の理論的枠組みの提示を試みている。

第4章から第8章までが実証編で、村落領域・生産領域・社会空間・民俗分類・小地名・方位・場所・境界・象徴空間などに着目しながら、具体的に農山漁村の空間分類に関わる諸問題を取りあげている。第4章は長野県下諏訪町萩倉を事例として村落の基礎空間を細分して空間分類の全体性を明らかにすることを試み、以下、第5章は京都府与謝郡伊根町新井を事例としてジェンダーごとの差異（空間分類の複数性）を、第6章は滋賀県朽木村麻生を事例としてスケールに応じた分類体系の差異、つまり空間分類の階層性を、第7章

は佐賀県鎮西町馬渡島を事例として住民による社会空間の意味づけが相対的であることを、第8章は中国四川省の龍泉駅区柏合鎮二河村を事例として、政治権力による空間分類の変動性を論じている。

本書の最大の特徴は、テキスト論・構造主義・記号論を枠組みとして、これまで地理学において欠如しがちであった理論の体系化を試みつつ、それに基づいて実証研究を展開していることにある。著者は内外の膨大な文献の解読・検討を通して、理論体系の構築に努めるとともに、それを緻密かつ丹念なフィールドワークで証明するという時間のかかる作業に取り組み、重厚な作品を生み出すことに成功した。本書では各章の意図や概念を繰り返し確認するなど、思考過程の苦闘の様子が見てとれるが、このことは逆に、本書が新地平を拓こうとする野心的かつ意欲的な作品であることの証左でもある。

本書では、著者の多面的なフィールドワークの成果が演繹的に整理されすぎている感がしないでもない。各地域での具体的な調査と分析は実に優れているにもかかわらず、理論の精緻化と方法論の厳格化が、地域の個性や住民の生き生きとした生活空間の記述を損なっている側面があるように思われてならないからである。しかし、これは贅言というべきものであろう。

それはともかく本書は、理論と各地の事例研究を見事に整合させている高い水準の作品で、近年やや停滞的な村落研究に対して刺激的な、紛れもない力作であることは疑いの余地がない。

よって、『農山漁村の〈空間分類〉—景観の秩序を読む』の著者である今里悟之氏を第7回人文地理学会学会賞候補者（A部門）として推薦する。

人文地理学会学会賞（B部門）候補者選考委員会からの答申

2007年10月1日

人文地理学会 会長

金田章裕 殿

第7回人文地理学会学会賞（B部門）候補者選考委員会

委員長 宮口侗迪

委員 久武哲也

溝口常俊

松本博之

本委員会は、第7回人文地理学会学会賞（B部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：村山朝子

受賞候補書：『『ニルス』に学ぶ地理教育－環境社会スウェーデンの原点－』、ナカニシヤ出版、2005年、166頁。

選考理由：村山氏の『『ニルス』に学ぶ地理教育』は、今なお多くの日本人がその名を知る「ニルスのふしぎな旅」が、実は子供たちのみならず大人までがわくわくするような地理の魅力をも、いかに周到に配慮して語った物語であったかを、余すところなく示した秀作である。

世界的な児童文学の古典的名作として知られる「ニルス」は、もともと小学生（日本で言えば高学年あたり）を対象にした、スウェーデンの自然や地理が学べる読本教材として執筆されたものである。著者のラーゲルレーヴは、執筆のために3年の歳月をかけて文献資料を読み、各地に取材旅行をし、景観を確かめたと、本書に紹介されている。ラーゲルレーヴは「ニルス」発刊数年後に、女性として初のノーベル文学賞を受賞した。

本書は、ニルスの七か月半の旅の要所要所でいかに巧みに景観描写がなされているかを、また人々の暮らしや産業の発展がいかに的確に語られているかを、魅力たっぷりに伝えている。村山氏は後段で、本来人間であるニルスの「人の眼」、親指大にされたニルスの「小動物の目線」、ガチョウの背から見下ろす「鳥の眼」という表現で「ニルスの三つの眼」を分析しているが、これこそ地理学魅力を伝えるために地理学研究者が持つべき基本的姿勢である。そしてこれは、移動の中での鳥瞰的な考察の魅力のみならず、大地や場所への畏敬や愛を感じさせる地理学の根幹にかかわる指摘でもある。

本書は、「ニルス」を深く読み込んだ結果を、単なる解説を超えて、地理学および地理教育への著者の愛をにじませながら、極めてわかりやすく一般の読者に伝えることに成功し、

加えて時代の動向の中で、環境問題に対する思考力の醸成にも貢献するものとなっている。また、旅の価値や移動からつかみ取った魅力ある物語に基づく地理読本の必要性を喚起している点でも、地理学界および地理教育界に大きな問いかけを行なっているといえよう。

なお本書の冒頭で、父子二代にわたる「ニルス」の全訳の出版の苦勞のいきさつに触れているが、このことは従来一部でしか知られていなかった「ニルス」の大きな実像を、より広い範囲の読者に知らしめることになり、啓蒙書としても極めて大きな価値を感じさせるものとなっている。

以上の理由により、本書を人文地理学会賞（B部門）の受賞作として推薦することに、選考委員全員の意見が一致したことを、ご報告申し上げます。なお、無念にも先ごろ逝去された故久武哲也委員は、病床にありながら丁寧に候補作を読まれ、的確なご意見を寄せられた。謹んで哀悼と共に感謝の意を表したい。

人文地理学会学会賞（C部門）候補者選考委員会からの答申

2007年10月1日

人文地理学会会長

金田章裕 殿

第7回人文地理学会学会賞（C部門）候補者選考委員会

委員長 藤井 正

委員 日野正輝

委員 村山祐司

委員 川端基夫

本委員会は、第7回人文地理学会学会賞（C部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：澤 宗則・南埜 猛

受賞候補論文：論説「グローバル化にともなうインド農村の変容 —バンガロール近郊

農村の脱領域化と再領域化—」『人文地理』第58巻2号、2006年

選考理由：本論文は地理学の柱ともいえる実証研究の今後のあり方を考える上で大きな貢献をするものであり、学会賞にふさわしい論考である。具体的には次の2点において高く評価できる。

まず第1に、グローバル化という今日的な重要課題について、ローカルな地域の問題を扱ってきた地理学（者）がどのような立場・視点からアプローチするのかという基本的な問題に対して、ひとつの答えを提示している点である。理論的枠組みとしてギデンズの近代性に関する理論を援用し、それを「脱領域化」と「再領域化」というフレームに置き換え、ローカルな存在の農村空間における変容についてインド大都市近郊農村を事例に考察している。その中で、地理学が得意としてきたローカルスケールでの実証研究によりその過程を解き明かそうとする本論文は、オリジナリティある研究として高く評価できる。わが国におけるグローバリゼーションをめぐる議論に地理学から一石を投じるものといえよう。

2点目は、IT集積で世界の注目を集めるインド・バンガロールで、丹念な現地調査を遂行し、オリジナルな資料で理論フレームを検証した点である。一般化するに足る100を超えるサンプル数を得て導き出した論考には説得力がある。ともすれば、細かな事実の確認に終始する傾向が強い海外現地調査を、理論フレームとのすりあわせの中で整理した点で、地理学における理論検証的調査の手本となるべきものといえる。また、内容面・手法面ともに、地理学の海外研究の有効性を周辺分野に明示した点でも意義深い論文である。

2007年11月17日

## 『地理学文献目録第12集』進捗状況（11月1日現在）

編集委員長 河原典史（総括）  
副委員長 三木理史（単行本）  
今里悟之（雑誌）

### I 雑誌班

今回より編集体制を大幅に変更

→ 一部、雑誌発行元の学会・研究室に直接分類作業を依頼

#### ■ 主要雑誌

88雑誌・5,849論文（一部督促中除く）

#### ■ 自己申告・委員会指定雑誌

198雑誌・1,987論文（一部督促中を除く）

+学会受贈文献のうち未収録の分35論文を追加予定

#### ■ 合計

7,836論文（データ収集済み）

### II 単行本班

今回より編集体制を大幅に変更

→ 国会図書館データベースをもとに「地理」関係刊行の多い出版社を抽出  
各社に直接作業を依頼したが、一社を除いてあまり好結果は得られなかった。  
それ以外を16名の委員に依頼。

#### ■ 単行本

627冊

+学会受贈文献など未収録分を追加予定

#### ■ 単行本所収論文

436論文

+学会受贈文献など未収録分を追加予定

### III 今後の予定

2008年3月末日：古今書院から出版予定

以上